

地域・社会との共生活動

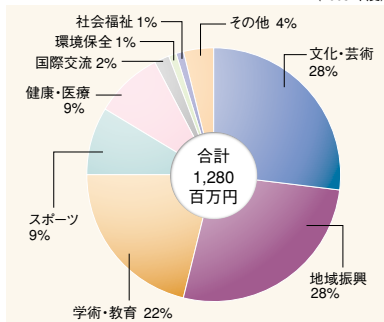
快適で豊かな地域・社会の実現と、その持続的な発展を目指し、良き企業市民として、積極的に地域・社会共生活動を推進します。

様々な分野での共生活動

当社は、「地域・社会との共生」を目指し、より豊かな社会を創造するために何ができるかを考え、事業活動や地域貢献活動を通じて、地域・社会の発展に向けた取組みを行っています。

具体的には、九州各地において、文化・芸術、スポーツ、地域活性化、社会福祉など様々な分野において支援や協力を行っています。

▼地域・社会共生活動に関する支出内訳 (2005年度)



※環境会計に計上される費用を除く。

文化・芸術への取組み

芸術・文化は、ゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活を実現するうえで不可欠なものであるとの考えのもと、文化の香り高い九州の実現に向け、地域に根ざした文化活動への支援や地域の文化レベル向上に寄与する活動を積極的に推進しています。

■音楽文化支援

九州における音楽文化の普及のため、様々な取組みを行っています。具体的には、九州唯一のプロオーケストラである九州交響楽団の活動を全面的に支援しています。

また、九州の皆さまにプロのオーケストラに触れる機会を提供するため、同楽団によるコンサートを主催しています。

●九電ふれあいコンサートの開催

1985年から、生演奏を鑑賞する機会の少ない市町村で、九州交響楽団による親子のためのクラシックコンサートを開催しています。

1995年からは、全日本学生音楽コンクール福岡大会の上位入賞者との共演も実施しており、才能ある若手音楽家の育成にも努めています。

2005年度は、5,092名のお客さまが来場され、演奏者と一体となって楽しいひと時を過ごされました。

なお、本コンサートの入場整理券代は地域の福祉団体等へ寄贈しています。

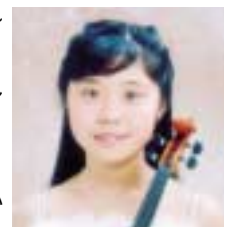
九州交響楽団と共演して

13歳の誕生日は私にとって忘れられない素晴らしい記念日になりました。その日は、オーケストラとの共演の日だったからです。

先生や九響のメンバー、関係者の方の暖かさに支えられて、自分なりの演奏ができました。

今回、良い経験をさせていただいて感謝の気持ちでいっぱいです。この気持ちを忘れず、これからも練習に励んでいきます。

本当にありがとうございました。



西川のぼらさん(ヴァイオリン)

九州国立博物館設置に向けた協力

2005年10月、九州国立博物館は、日本で4番目の国立博物館として開館しました。

地元の長年の夢だったこの博物館は、誘致活動から募金活動まで官民一体となって進められてきたプロジェクトであり、その中で当社は、同博物館の設置を推進する団体への役員就任や専任スタッフの派遣などを通じ、その中心的役割を果たしてきました。

古来よりアジアとの交流の窓口であった九州の地に、「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」という視点で設置された同博物館は、今後アジアとの交流の新たな拠点として、文化の香り高い九州の創造に貢献することが期待されています。



九州国立博物館

2006年度の活動項目	2006年度の主な行動計画
街づくり・地域づくりへの参画	○若手工芸家国内外派遣研修制度の継続実施 ○まちづくりシンポジウムの開催
地域文化、スポーツ活動、ボランティア活動などへの継続的な取り組み	○地域・社会共生活動推進体制の構築 ○各所における地域・社会共生活動の継続実施

●九電文化の森コンサートの開催

1993年から、著名なソリストや指揮者を招いて、九州交響楽団による本格的なクラシックコンサートを九州各地で開催しています。

2005年度は9,732名のお客さまにご来場いただきました。

なお、本コンサートの入場整理券代は「九響支援募金」として、九州交響楽団に寄贈しています。



■地域のまつりへの参加

地域文化保存の一環として、また、地域の皆さまとの絆を深めるため、2005年度は各事業所の3,544名の社員が地域のまつりに参加しました。また、グループ会社でも、地域のまつりへの参加・運営を行っています。



わっしょい百万夏祭り(北九州支店)

■伝統工芸支援

九州各地の伝統的工芸品は、長い歴史と伝統を誇っており、その洗練された技術は九州にとって貴重な財産となっています。それらの継承のため、当社は様々な取り組みを行っています。

具体的には、各地域で行われる工芸品展や工芸教室、講演会などに協賛しています。

また、当社独自の取り組みとして、若手工芸家国内外派遣研修制度を設けています。

●若手工芸家国内外派遣研修制度

九州に住む若手工芸家の方々の知識や技術の習得を目的とした国内外の研修プランに対し、資金的支援を行う制度です(1996年創設)。

これまでに42名(国外27名、国内15名)がこの制度を活用して、国内外で研修を行い、研修終了後は、研修成果を創作活動に活かすとともに、情報交換や合同展示会の実施など、研修先との継続的な交流により、伝統的工芸品の発展に努められています。

http://www.kyuden.co.jp/company_social-action_dento_young

▼若手工芸家研修内容(2005年度)

研修先(国・地域)	研修内容
中国	遼寧から高麗陶磁への技術伝播の研究
イタリア	ヴェネツィアガラスの造形(手吹・装飾)からカットングまでの工程技術の習得
沖縄県	沖縄壺屋焼のロクロ成形、伝統技法の加飾から焼成までの技術習得
宮崎県	大島紬製作のための技法・技術の習得

■お茶の間論文・エッセイ募集

1985年から、広く多くの方が参加できる文芸作品の募集活動を、各支店と地元新聞社との共催で実施しています。2005年度は、4,457編の応募がありました。



「お茶の間エッセイ」入賞作品集

■次世代層を対象とした文化活動

各支店では、高校生以下の次世代層を対象に、作文募集や絵画コンクール、音楽発表会など、地域に密着した独自の文化活動を行っています。



「わたしの絵コンクール」入賞作品展(鹿児島支店)



中国での研修の様子

地域活性化への取り組み

■「まちづくりシンポジウム」の開催

九州地域の活性化のために、自治体などと協力し、「まちづくりシンポジウム」を開催しています。毎年、講演者やパネリストの方をお招きし、その地域における現在の課題や、文化や特性を活かした地域振興のあり方などについて議論し、より良い地域づくり・まちづくりに向けて取り組んでいます。



福岡県飯塚市での「まちづくりシンポジウム」(北九州支店)

▼まちづくりシンポジウム実績 (2005年度)

実施場所	参加人数	テーマ
福岡県飯塚市	170名	ユビキタス時代の衣・食・住を展望する
福岡県柳川市	150名	子どもたちを犯罪からまもるために
佐賀県多久市	250名	日本の未来は地方が創る
長崎県雲仙市	250名	「農」と「観」でひらく新しい雲仙のカタチ
大分県国東町	600名	まちづくりは健康から
熊本県八代市	400名	歴史をたずね、文化と出会うまち やつしろ

■知的インフラの創造

当社は、九州地域における新たな知的インフラの創造にも積極的に取り組んでいます。

特に、九州・アジアで活躍するビジネスリーダーを輩出し、社会全体の利益増進に貢献するために、九州の産学官27機関で設立した「(特非)九州・アジア経営塾」を当社は設立当初から全面的に支援しています。

<http://www.kail.jp>

スポーツ振興への取り組み

■地域のスポーツ大会への支援

1993年から、地域におけるスポーツ活動の活発化及びレベルの向上を図り、明るく健康的な地域社会の形成を目指し、子ども、一般成人からお年寄りの方まで幅広い層を対象とした地域のスポーツ大会を実施しています。

2005年度は、各事業所で18種目、113の大会を開催し、53,211名が参加されました。



九電杯少年サッカー新人大会(佐世保営業所)

■シンボルスポーツの導入

当社は、2005年、従来から当社を代表するスポーツであるラグビー部を「シンボルスポーツ」と位置づけ、国内最高峰のトップリーグへ参入することを目指すとともに、地域の皆さまから愛され、応援されるチーム創りを行っています。

併せて、各地域の少年ラグビースクールへの指導、イベントへの参加など更なる地域スポーツの活性化に取り組んでいます。



ラグビー部によるラグビー教室

福岡西方沖地震被災地への支援

2005年3月20日、福岡県西方沖地震(震度6弱)により、福岡県内及び周辺では家屋の倒壊や土砂崩れなど、多大な被害を受けました。特に被害が大きかった玄界島住民の方々は、避難期間が長期化し不自由な生活を余儀なくされました。

当社は、ライフラインである電気の復旧作業はもちろんのこと、その他被災者への支援活動を展開しました。具体的には、避難所である「九電記念体育館」に隣接した当社施設「あかりの館」を食事場所として開放するとともに、復旧支援のための義捐金として、1,000万円を福岡県共同基金会を通じ寄付しました。

さらには、2005年5月、「博多どんたく港まつり」期間に合わせて地元行政と企業が連携して展開した「元気バイ!!ふくおか」キャンペーンに、当社も積極的に協力し、地震被害に負けない元気な都市福岡をアピールしました。



食事場所として開放した「あかりの館」



「元気バイ!!ふくおか」どんたく隊

地域環境保全への取組み

各事業所において、地域の清掃活動などを通して、地域の皆さまが快適に過ごせる環境づくりに取り組んでいます。

主な活動として、毎年6月の環境月間や10月の「九電お客さまありがとうございますキャンペーン」期間を中心に、河川敷や海岸、史跡などの清掃を経営幹部と従業員が一体となって実施しています。



社長が参加した「櫛田神社清掃活動」(福岡支店)



岡城址の石垣清掃(竹田営業所)

社会福祉への取組み

各事業所において、地域の特性を踏まえた社会福祉への取組みを行っています。

主な活動として、「九電お客さまありがとうございますキャンペーン」期間等を中心に、文化財や独居老人宅の配線診断・照明器具の清掃等のサービスをはじめ、社会福祉施設への慰問、聴覚障害者協会や聾学校等への字幕放送用テレビチューナー寄贈などを実施しています。

また、スペシャルオリンピックス熊本地区大会や大分国際車いすマラソン大会の運営の参加や飯塚国際車椅子テニス大会等への協力も行っています。



字幕放送用テレビチューナーの寄贈(佐賀営業所)



独居老人宅の照明器具清掃サービス(武雄営業所)

坊(ぼう)ガツル野焼き活動への協力

2005年11月、当社大分支店が、「くじゅう坊ガツル(大分県竹田市)・タデ原(同九重町)湿原」のラムサール条約^{このえ}*登録記念式典において、これまでの継続的な湿原保護への協力に対し、竹田市から感謝状をいただきました。

当支店では、1999年に地元関係団体などとともに「坊がつの野焼き実行委員会」を発足させ、以降、毎年ボランティアとして委員会の運営や野焼き活動への支援・協力を続けています。

今回のラムサール条約登録により、今後、野焼き活動はますます重要性を増していくことから、引き続き地元の方々とともに、湿原保全に向けた取組みに協力していくこととしています。



野焼きの様子

(財)九配記念育英会

当社の前身である九州配電(株)の清算余剰金で設立された「(財)九配記念育英会」を通して、1957年から、大学または専修学校に在学する心身健全、学力優秀で、学校の推薦を受けた方(留学生を含む)に、学資の給与を行っています。

現在、毎年約30名に対し、一人あたり22万円を支給し、支援を行っています。

※用語解説／*ラムサール条約:「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」のこと
国際的に重要な湿地及びそこに生息・生育する動植物の保全を進めること、湿地の適正な利用を進めることを目的としている

国際交流・国際協力の取組み

海外（9か国）の13の電気事業者と交流協定に基づき交流を深め、また人材育成や技術提供を通じ、途上国の持続的発展に貢献しています。

■国際交流

英国やフランス、韓国などの電気事業者とは、電力市場の自由化などについて情報交換等を実施し、中国やタイ、ベトナムなどの電気事業者とは、当社が保有する発電・送電・配電に関する技術やノウハウの提供を通じた交流を行っています。



タイ地方電力公社（PEA）との定期交流

■国際協力

途上国の電気事業の発展に寄与するため、国際協力機構（JICA）や海外電力調査会を通じ、アジア諸国を中心に、研修生の受入や専門家の派遣などを実施しています。

地域社会が抱える課題解決に向けた取組み

■地域防犯活動への協力

地域に密着した事業形態を活かし、地域の皆さまや企業、警察と協力し、地域パトロールや子どもが犯罪に巻き込まれない環境づくり等の地域防犯活動を各地で実施しています。

鹿児島支店では、グループ会社の（株）九電工と協力会社、合わせて7企業で、2006年から本格的に「こども110番」活動を実施しています。



社用車での「こども110番」活動（鹿児島支店）

■不法投棄パトロールへの協力

パトロール中などに廃棄物の不法投棄を発見した際、自治体へ情報提供を行う「廃棄物の不法投棄対策に関する協定」を、22事業所で、延べ77の地元自治体と締結し、実践しています。



社用車にもステッカーを貼り不法投棄抑止をPR

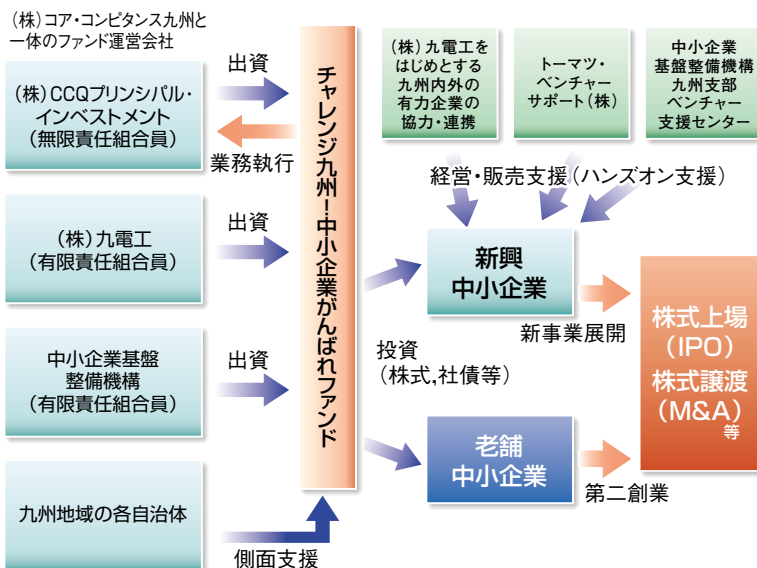
「チャレンジ九州!中小企業ががんばれファンド」の設立 - (株)九電工の取組み -

当社グループの（株）九電工は、中小企業基盤整備機構（以下中小機構）と共同出資で、（株）コア・コンピタンス九州プリンシパル・インベストメントをファンドの運営会社とした「チャレンジ九州!中小企業ががんばれファンド」を総額10億円で設立しました。

中小機構の「がんばれ!中小企業ファンド」のスキームを活用したファンドとしては九州初となります。株式公開を指向しない中小企業に対しても、融資・新株予約権付社債等、様々な形態での支援を行うことが出来る点が最大の特徴です。

（株）九電工は、このファンドを通じて、九州地区を主な拠点とする中小企業の新規事業展開、第二創業を幅広くサポートします。

<http://www.kyudenko.co.jp>



従業員のボランティア活動支援

従業員が積極的にボランティア活動に取り組めるよう、ボランティア休暇制度や費用補助、情報提供、啓発活動など、環境づくりと支援を行っています。

■ ボランティア休暇制度

従業員は、年間7日（ドナーは必要日数）を限度に年次有給休暇とは別にボランティア休暇を取得することができます。（半日単位取得可）

▼ ボランティア休暇の取得実績 (日)

2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
191.5	345	283.5	261.5	296.5

■ 地域社会貢献者表彰制度

永年にわたり地道に地域社会への貢献活動を行っている従業員を表彰しています。

▼ 地域社会貢献者表彰実績 (人)

2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
49	27	41	21	25

■ 資格取得に対する支援

身障者老人福祉、スポーツ指導、保健・衛生、余暇活用の4分野で17資格を対象に受験料や受講料、交通費実費を支給し、従業員の資格取得を支援しています。

▼ 資格取得に対する支援実績 (人)

2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
18	19	35	30	40

■ ボランティア啓発活動

従業員のボランティア活動に対する意識高揚を目的として、事業所単位でボランティア体験発表会やセミナーの開催、福祉施設の訪問など各種啓発活動を行っています。

更なる活動の充実

当社は、従来から幅広い分野で積極的に地域・社会との共生活動を実施しており、これらの取組みは、今後ますます重要になると考えています。

加えて、これらの取組みを今後更に充実したものにしていくためには、取組目的や姿勢を明確にするとともに、地域・社会のニーズに応じた活動の更なる展開を図ることが必要であると考えています。

このようなことから、2006年4月、活動を行ううえでの指針となるものとして、「地域・社会共生活動基本方針」を制定するとともに、各部門が行う活動を総括し、全社最適の視点で部門横断的にマネジメントを行う体制を構築しました。

これらにより、地域・社会との共生活動の更なる充実に繋げていきたいと考えています。

あしなが育英会を支援する会の活動を続けています。

親を病氣・災害・自殺で亡くしたこどもの支援活動（居場所づくり）、自殺防止対策（自死遺児シンポジウムの開催や行政への積極的な働きかけ）を8年間続けています。その活動を評価いただき、当社の地域社会貢献者として、表彰を受けました。

自分がこの表彰を受けたことで、このような活動が今の社会において必要なことであり、当社の社員には、社会が求めていることに活かせるノウハウやスキルが十分にあり、ボランティアとしてできることがたくさんあるということを一人でも多くの社員に、知ってもらい、社会の中で活かしてほしいと願っています。



中尾 朱実
（佐賀支店総務部広報グループ）
あしなが育英会を支援する会
「佐賀・ビッグフット」代表

地域・社会共生活動基本方針

九州電力は、快適で豊かな地域・社会の実現と、その持続的な発展を目指し、以下の原則に基づき、良き企業市民として、積極的に地域・社会共生活動を推進します。

- 1 「地域振興」「文化・芸術」「スポーツ」「学術・教育」「社会福祉」「健康・医療」「国際交流」「環境保全」の分野で、魅力ある地域づくりや次世代層の育成などを行うとともに、地域・社会の課題解決に向けた取組みを行います。
- 2 当社の持つ経営資源を有効に活用した取組みを行います。
- 3 活動内容を公表し、皆さまとコミュニケーションを図ることにより、その声を諸活動に反映させるとともに、地域・社会の皆さまとの協働を進めます。
- 4 従業員が一市民として行う共生活動を支援します。